

ラボ・センター紹介

ヒューマンシステムデザインラボ (Human System Design Laboratory)

<http://lab.sdm.keio.ac.jp/maenolab/index.htm>

担当教員: 前野隆司教授

ヒューマンシステムデザイン研究室(通称ヒューマンラボ)は、狭義には前野研究室を、広義には慶應SDM内外に公開するオープンなラボをさす。ラボ活動はオープンに行われており、前野研、白坂研、その他の学生、研究員、SDM外部の有志により行われている。ここでは狭義のヒューマンラボ(前野研究室)の紹介を行う。

前野研究室は、修士課程・博士課程学生と研究員あわせて約60名が「人間に関係する研究は何でも行う」をモットーに人間の認知心理やシステムデザインを中心とする様々な研究を行っている。研究テーマは幅広く、現在のテーマは、「幸福学に基づく社会システムのデザイン」「地域活性化モデルのデザイン」「コミュニティのデザイン」「ホテル・旅館の人格化による格付け研究」「産学連携ワークショップのデザイン」「イ

ノベティブワークショップデザイン」「組織におけるボトムアップとトップダウンの統合シミュレーション」「ユニバーサルデザインとエスノグラフィ」「感動の研究」「天才性の研究」「人間成長モデルの研究」「経営のためのイノベティブデザインワークショップの研究」「スポーツと多様性適応力の関係の研究」「フェイシャルマッサージの最適化研究」「触覚の定量化研究」「社会起業家の研究」「英語教育の研究」「欲求連鎖分析の応用研究」などが行われている。近年の多くのテーマは「協創」に関するものが多いが、それに限るものではない。いずれも、人類の平和と幸福に資する技術システム・社会システム・人間システムのデザインを志すものである。

見学・参加・ご意見、大歓迎です。お気軽にお問い合わせください。

ビジュアル・シミュレーション・ラボ (Visual Simulation Laboratory (VS-Lab))

<http://lab.sdm.keio.ac.jp/ogi/lab.html>

担当教員: 小木哲朗教授、立山義祐助教、他

当研究室ではビジュアライゼーション、VR/AR、臨場感通信等の技術をベースに次世代の情報・通信・メディアシステムのデザインを研究テーマにしています。没入型ディスプレイ、テレマージョン、ビッグデータ分析等の基礎技術に関する研究から、ライフログデータの活用法、博物

館におけるデジタル技術の利用、コンテンツによる地域活性化等の応用分野まで、幅広い視点で研究を行っています。以下に幾つかの研究事例を紹介します。

テレマージョン

テレマージョンとは遠隔地間で臨場感の高いコミュニケーションを実現する技術で、CAVEやタイルドディスプレイを用いたコミュニケーション、人物像を仮想世界に合成するビデオアバタ技術の開発等を行っています。最近では国際宇宙ステーションに滞在中の星出飛行士との3D映像通信、海底5000mを探索中のしんかい6500との3D映像通信の実験を行いました。

デジタルミュージアム

デジタルミュージアムとは、VR(バーチャルリアリティ)やAR(拡張現実感)のデジタル技術を用いることで、博物館における魅力的な展示を行う方法です。例えば、空間型AR技術を用いることで、展示物にCG映像を融合し映像による解説を付加することができます。また作品とインタラクションを行うことが可能なデジタル3D浮世絵等のコンテンツの制作を行っています。

没入型ドライビングシミュレータ

西村研究室と共同で、没入型ディスプレイCAVEを使用した自動車やバイクのドライビングシミュレータの開発を行っています。このシステムはリアリティの高いシミュレータを構成すると同時に、運転手の操作や安全確認行動をデータとして計測することができるため、高齢者ドライバーの安全運転力の計測、HUDを利用したナビゲーションシステムの開発等に活用しています。



星出宇宙飛行士との3D映像通信



没入型バイクシミュレータ



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management